Ⅲ　具体的な取組

基本目標１　　思いやりの心を育む「ひとづくり」

活動目標①　[　笑顔で支え合う心を育てよう　]

地域福祉計画
関連項目
基本施策１－５

■現状と課題

少子高齢化や単身世帯の増加、令和２年からの新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに人と接する機会が少なくなり、お互いに思い合う心を育てる機会が減ってきています。

地域における支え合いを進めるためには、地域住民一人一人が支え合いの心を育むことが大切です。家族や隣近所、友人知人等「顔の見える関係」を作り、地域活動に関心を持ち、地域コミュニティの活性化を図ります。そのために、様々な媒体を活用し、福祉に関する情報発信を行うほか、福祉に関するイベントや講座、研修会を開催し、福祉を身近に感じることができる取組を実施することが必要です。また、市内の組織、団体が取り組んでいる様々な活動の趣旨に福祉の心を育てる視点を散りばめるようにしていくことも大切です。

■具体的な取組

	取組内容	取組チェック表		
		Ｒ４年	Ｒ６年	Ｒ８年
一人一人が取り組むこと	●隣近所の人や、親戚、友人知人等とお互いに声を掛け合いましょう。			
	●自治会や子ども会等自分の住む地域の活動に参加しましょう。			
	●福祉に関する講座や研修に参加し、福祉への関心を高め、知識を深めましょう。			
	●地域にある福祉関係団体の活動について理解を深めましょう。			
	●社協だよりや回覧を確認し、自分にできる活動を考えましょう。			
	●自分が知っている地域の情報や福祉の情報を周りの人へ提供しましょう。			
地域みんなで取り組むこと	●地域であいさつ運動を行い、住民が気軽に交流する機会を作りましょう。			
	●身近に「支援を必要としている人」がいることに気づき、手助けできることはないか考えましょう。			

	●地域の福祉活動の情報を周りの人へ提供しましょう。			
	●地域の生活課題や福祉課題を発見し、地域や団体で取り組める活動を考えましょう。			
社協が取り組むこと	●社協だよりを年６回発行します。			
	●ホームページ、フェイスブックによる情報発信をします。			
	●ほっちゃテレビ、FM アクア等メディアを活用した情報発信をします。			
	●社協のパンフレットを研修会等で配布し、情報提供をします。			
	●福祉活動 PR キャラクター「ほえっぴー」を活用した広報活動をします。			
	●福祉に関する講座、研修会を開催します。			
	●ふれあい･いきいきサロンや学校、企業、団体等へ「ふくし出前講座」を行い、社協の理解促進に努めます。			
	●市内の各種イベントに参加し、福祉活動等の啓発を行います。			

■５年後の姿

●地域住民一人一人が「福祉への関心」を持ち、思いやりや助け合いの心が育っている。
●身近に福祉を感じることができ、困った時の相談先を自分で見つけることができるようになっている。
●身近な地域であらゆる人が福祉情報を手にする環境が整っている。
●様々な違いを認め合い、共に生きる意識が育っている。

■福祉（ふくし）ってなに？

「福」も「祉」も、どちらも「幸福」や「しあわせ」を意味する漢字です。

英語では「welfare（ウェルフェア）」といい、「よりよく生きる」という意味です。

違いを認め合いながら、その人らしく毎日の生活を「しあわせ」に、そして「よりよい生き方」で生活が送れるよう、みんなで「福祉」がたくさんあふれる長門をつくって行きましょう!!

＝ふだんの　くらしの　しあわせ＝